

タイトル	It Might be an Apple				
著者（文・絵）	Shinsuke Yoshitake				
出版年	2015 年	出版社	Thames & Hudson		
オリジナル版	『りんごかもしれない』ヨシタケシンスケ、ブロンズ新社、2013 年				
総語数	678 語	ページ数	32 ページ	YL レベル	N/A
あらすじ					
男の子が学校から帰ってくると、キッチンのテーブルにリンゴがひとつ置かれています。「リンゴだ」と思った次の瞬間、男の子は自問を始めます。「いやちょっと待てよ、もしかしたらこれはリンゴじゃないかもしれない。」「もしかしたら、でっかいサクランボかもしれない。」「もしかしたら、金魚が丸まっているのかもしれない。」発想は次々に広がり、「これは何かの卵かもしれない」「これは地球に墜ちてきた惑星かなにかで 3 ミリくらいの apple alien がわらわら住んでいるのかもしれない。」果ては「このリンゴは生命誕生から現在に至るまでの地球の歴史をつぶさに見てきたのかもしれない。」と、深淵な思索に耽ります。誇大妄想気味のこの展開がどのように収束するのか、ページをめくるのが楽しみな一冊です。					
紹介					
ヨシタケシンスケといえば、今や本屋さんで常に新作が平積みになる超人気絵本作家です。彼の専売特許は、トボけた画風と軽妙な文章、そこに軽く脱構築的なアプローチ（唯一無二で絶対と思われていた物の見方をずらしたり壊したりしてこれまで見えなかった新たな世界を見せてくれる方法）を加えるという手法ですが、『りんごかもしれない』は、その彼の面目躍如たる絵本と言えるでしょう。その後、『ぼくのニセモノをつくるには』『このあとどうしちやおう』『つまんないつまんない』『あるかしら書店』『もうぬげない』など、意表をつくけれどほっこりする絵本を次々に発表していますが、やはり、『りんご』を越える作品はまだないと私は思っています。上記の絵本はすべて英訳版が出ていますが、やはり <i>It Might be an Apple</i> が抜きん出ています。 <i>It Might be an Apple</i> の最大の特徴は、ポストモダン的な物の見方、つまり目に見えていること、あたりまえだと思っていることがすべてではない、見方をちょっと変えると物事はまったくちがって見えてくるということを、小学生でもわかるように、読者にストンと理解させてくれるところです。主人公の男の子がリンゴについての様々な連想を繰り広げるうち、読者も自然と「自分が見ている物事は、もっと多様な解釈可能性を秘めているかもしれない」と考えるようになるでしょう。 実は、「目に見えるものが本当のものとはかぎらない」とは、村上春樹が 1995 年の阪神・淡路大震災と地下鉄サリン事件の直後に発表した短編「かえるくん、東京を救う」の中にも出てくる言葉です。阪神大震災を通して、私たちは決して揺らぐことも壊れることもない強固な世界などものはや信じることができなくなってしまいましたし、サリン事件を通して「善」や「正義」の危うさをも思い知らされました。「かえるくん、東京を救う」は、そうした絶対的価値観を喪失した世界で我々はどう生きるべきかを描いた秀作です。					

その後の SNS の急速な普及に伴い、世界中で「目に見えるものが本当のものとはかぎらない」状態がデフォルトになりつつあります。フェイスブックやインスタグラムに投稿される画像や動画が「本当のものとはかぎらない」ことを知りながら、私たちはそれを楽しんでいます。フェイクニュースやオルタナティブ・ファクトという形で「本当かどうかかわからない」情報が私たちの元に日々届けられます。何を信じたらいいのかわからないこんな世の中もういやだと、ついついやけになりがちです。

そんなときは、*It Might be an Apple* が特効薬です。「目に見えるものが本当とは限らない」状況をポジティブに楽しみ、笑いに変える方法を教えてくれます。こんなオルタナティブ・ファクトならあってもいいかな...と思わせてくれるかもしれません。

日本語版で秀逸なのは、リンゴのきょうだいの名前を五十音表に当てはめて「あんど、いんど、うんど...」と、50 種類の「リンゴのような」絵とともに並べるページですが、英語版ではこれがすべて英語の音に置き換えられています。作者は、例えば「あんど」という日本語の音の響きから連想される形をリンゴ風に描いているのですが、英語版は、英語の語感でその絵に合った名前を付けています。一つの形から連想される日英の音が違うという点に、学習者の注意をぜひ向けていただきたいと思います。

指導ポイント、授業活用例、学生の声など

【仮定法 might の使い方】

“It might be ...”が延々と繰り返されますので、仮定法の導入には最適でしょう。万一の可能性を仮定する might の用法を感覚的につかめます。仮定法を使った作文練習に展開することをお勧めします。「これがリンゴじゃないとしたら...」につなげて might を使った英作文を各自おこない、クラスでシェアすれば、仮定法嫌いが減るかもしれません。

【ポストモダン絵本 (post-modernist picture book)】

詳細は、本 HP の *Voices in the Park* のページを参照のこと。

【授業活用例】

➤ ポストモダン絵本を使ったグループディスカッション

この活動は、本 HP で紹介している他のポストモダン絵本 *I Want My Hat Back*, *The Doubtful Guest*, *Voices in the Park*, *Into the Forest*, *The Lost Thing* などと組み合わせて行います（これらの絵本については、本 HP の他のページを参照のこと）。ポストモダン絵本は読者に多様な解釈を促すので、ディスカッションに用いると、参加者は1人で読んだだけでは気づくことのない新しい視点、物の見方に気づくことができます。

手順

Lesson 1

1. ポストモダン絵本とは何かについて教師が説明する。
2. 6冊の絵本を学生に回し読みさせ、最も気に入った絵本を選ばせる。
3. 学生の第一希望を考慮しつつ、絵本ごとに4～5人ずつのグループを作る。
4. 次の授業までに、選んだ絵本についてあらすじ、登場人物の特徴、テーマ、その他ディスカッションで話したい問いなどを準備させる（ワークシート配布、下記

参照)。

Lesson 2

5. 選んだ絵本についてグループディスカッションを行う (30 分～45 分)。
6. ディスカッションで話し合った内容をクラスで発表する (各グループにつき 10～15 分程度)。発表の際には、パワーポイントや手書きのフリップなど視覚資料を使用するよう指示する。

【学生の声】

- この本のメインテーマは、「考えることの大切さ」、「チャレンジすることの大切さ」、「観察することの大切さ」、「常識に捉われない大切さ」だと思います。

関連作品・参考 URL

【Shinsuke Yoshitake による他のお薦め絵本】

1. *Can I Build Another Me?* (Thames & Hudson, 2016) (『ぼくのニセモノをつくるには』 ブロンズ新社、2014 年)
- *Still Stuck* (Thames & Hudson, 2017) (『もう ぬげない』 ブロンズ新社、2015 年)
- *What Happens Next?* (Thames & Hudson, 2017) (『このあとどうしちゃう』 ブロンズ新社、2016 年)
- *The I Wonder Bookstore* (Chronicle Books, 2019) (『あるかしら書店』 ポプラ社、2017 年)
- *The Boring Book* (Chronicle Books, 2019) (『つまんないつまんない』 白泉社、2017 年)

備考

本稿の一部は大修館『英語教育』2020 年 2 月号 (Vol.68, No.12) の口絵「絵本を探しに」[11]の原稿を大幅に改訂したものです。

cf. 参考ワークシート

Reading Picture Books for Shared Reading

Student ID _____ Name _____

Title of the picture book you chose _____

Before the Discussion

➤ What are the objective facts of the story? List them below.

➤ Fill out the table below. (Character の数は作品によって適宜変更)				
	Character A	Character B	Character C	Character D
How old is he/she?				
What can we tell about the character from the way he/she speaks or behaves?				
Anything else in the book that gives information about the character				
What page is the most important for the author ⁽¹⁾ ? Find the core idea ⁽²⁾ of the picture book.				

© Just Imagine Story centre Ltd.

注(1), (2)

作者の視点を意識させるための問いです。作者がその本の「肝（きも）」であると考えているページはどこかを探します。Core idea とはその「肝」のことです。本の「核」となるアイディア、あるいはその本の「種」と言えいいでしょうか。作者はなんとなく本を書き始めているわけではなく、なんらかの「種」から本を育てていくと考えられます。それは必ずしも明確なメッセージやテーマではないかもしれませんが、しかし、その「種」がなければ、その本は生まれなかったような「着想の原点」が本のどこかに隠れているはずです。それを、作者が描き込んだ言葉やイラストの中に探す活動です。もちろん、決まった解答はありませんので、ディスカッションで最も盛り上がる問いです。

During the Discussion

Write two questions that you would like to ask your classmates. Then provide answers to the questions.

Question 1 + your answer (事前に用意しておき、ディスカッション中に発表する)

Your classmates' answers (ディスカッション中にメモする)

Question 2 + your answer (事前に用意しておき、ディスカッション中に発表する)

Your classmates' answers (ディスカッション中にメモする)

After the Discussion

Write a short review of _____ (title) for class presentation

_____ (title) is about _____

What attracts the reader to this book is that
